

巻頭言

新しい時代に対応した計量士の力量向上と若手計量士の育成を

(一社) 日本計量振興協会会長 鍋島 孝敏

日本計量振興協会の鍋島でございます。平成 29 年 5 月、楠前会長に代わり会長に就任いたしました。会員各位並びに計量関係者の皆様のご支援をいただくことにより役目を果たしていきたいと考えます。

よろしくお願い申し上げます。

東京計量士会は、当会の有力会員として、平素からご支援ご協力をいただき誠に有難うございます。また、東京計量士会は、大阪計量計量士会と並ぶ全国計量士会のリーダー的存在として、日本計量士会時代から約 60 年の長きにわたり計量士事業運営を通して計量界の屋台骨を支えてこられたことは称賛に値することだと思えます。

さて、日本経済は、世界の政治経済の影響を受け不透明な展開となっておりますが、こうした状況下にあっても、何とか経済の回復基調の持続が期待される情勢です。

最近の計量界においては、ご承知のように、昨年の計量制度（政省令）改正により、長い間の懸案であった指定検定機関の創設や自動はかりの特定計量器への追加等、民間化促進の方向性が強く打ち出されました。

特に、以下の観点で計量士の地位向上と業務拡大の方向となったことが注目されます。

- 1) 計量士が指定検定機関に所属し、自動はかりの検定業務を行う。
- 2) 計量士が適正計量管理事業所等で自動はかりの計量管理業務を行う。

したがって、計量士におかれては、本制度改正をビジネスチャンスと捉え、業務拡大のため積極的な取り組みを行うことが重要になると考えます。

そもそも、自動はかりについては、平成 25 年度の関東ブロック協議会で、東京計量士会からの要請に応え、当日計振において自動はかり検討委員会を編成し調査検討を行い、経済産業省に自動はかりの規制要望提案を行ったことが、計量行政審議会において自動はかりが特定計量器に追加されるきっかけの一つになったものと思っています。

手始めに全国で既に何人かの計量士が取り組んでいる適正計量管理事業所等における自動はかりの計量管理業務にチャレンジすることをお勧めいたします。

当会では、本年度より、自動はかりの検定や計量管理に関する技術講習会を開催する予定ですので、東京計量士会における多数の方の参加を期待いたします。

東京計量士会の今後の課題は、時代のニーズに対応した計量士の力量の向上と若手計量士の育成であると考えます。

地区の課題は運命共同体である当会の課題でもありますので、意見交換や連携の場を通して今後の有効な対応を図っていききたいと考えますので、よろしくご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

